ワルシャワ日本人学校での体験活動について

前ワルシャワ日本人学校　教諭
吉川市立栄小学校　教諭　矢野聖也

キーワード　体験活動　校外学習　現地校交流

1　はじめに

ポーランド共和国はヨーロッパの中央に位置している。緯度が高いために日照時間や気温の変化が大きく冬の寒さは厳しが、新緑の季節は花が咲き乱れて大変美しい。ポーランドという国名は、平野を意味する「ポーレ」という語に由来し、広大で豊かな大地が広がる。首都ワルシャワは２０世紀の激動の時期を最も見守った街と言っても過言ではない。第二次世界大戦で町の大半が壊滅したが、戦後に市民の不屈の精神で再建された旧市街は世界遺産に登録されている。現在のワルシャワは建設ラッシュが続き、かつてない速さで成長を続けている。ワルシャワの人口は１７０万人。ポーランド人の日本への関心は高く、ワルシャワ大学を初め多くの大学に日本学科が設置されており、日本語を巧みに話す学生がテレビ等で紹介されている。

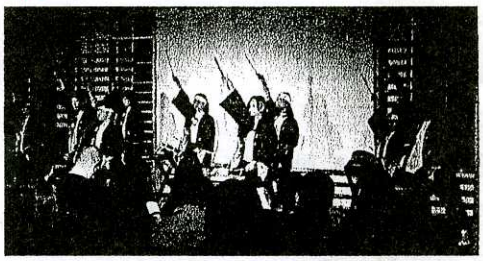
ルシャワ日本人学校には小学部と中学部が併設され、児童生徒数は２３名である。毎朝、保護者の責任のもとで児童生徒が登校し、職員が校門で出迎える。「おはようございます」という挨拶の後、「ジン　ドブリ」とポーランド語の挨拶が続き、笑顔とともに一日が始まる。子ども達は多様な体験活動を通して、健やかに成長している。

ワルシャワ日本人学校校舎

2　活動報告

（1）教育課程

２０１０年は、ショパン生誕２００周年、そして５年に一度開催されるショパンコンクールの開催年であった。ワルシャワ日本人学校の子ども達はポーランドの音楽を楽しみ、ピアノやバイオリン等の楽器のレッスンを受講したり、毎週開催されているコンサートやオペラを鑑賞したりして音楽に親しんでいる。その特色を生かし、ワルシャワ日本人学校では毎学期にミニコンサートを開催し、子ども達が素晴らしい合唱や合奏を披露している。また、学習発表会では合唱・合奏に加え、和太鼓も披露する。和太鼓に初めて触れる子どもも多く、最初はぎこちない動きだが、発表会本番では堂々とした姿で演奏し、毎年喝采を受けている。また、現地のフェスティバルに出演する機会もあり、現地理解や交流活動のよい機会となっている。夏には日本人会との共催で大運動会を開催する。特に、子ども達が披露する「よさこいソーラン」は大盛況である。事前の練習では、中学部や高学年の児童生徒が低・中学年の指導を行うが、活動の中で自然とリーダー性も養われる。



学習発表会での太鼓演奏

日本人会との共催で開催される運動会で「よさこいソーラン」を披露